

# 課題研究の成果を英語で発信するためのライティングワークショップ

国際部 中鉢健治

## (1) 目的

①研究内容について、英語で正確に書く力を高める。②グループのメンバーと研究内容について意見交換をすることで、協同的な学びの姿勢を身に付ける。③研究内容について、英語でわかりやすく他者に伝えるコミュニケーション能力を育む。

## (2) 内容

### ①小石川フィロソフィーⅤ

#### ・第1回ライティングワークショップ - ポスター作成 (1グループ45分)

6～7人で1つのグループを作り、4年次にそれぞれが研究した中から、代表研究を選ぶ。選ばれた研究内容については、さらに内容の改善を行い、その後「情報」の授業で、グループごとに研究内容をまとめたポスターを1枚作成する。作成したポスターと原稿を持参し、外国人講師に英語の指導を受ける。



写真 ポスターセッションの指導の様子

#### ・第2回ライティングワークショップ - ポスターセッション (1グループ45分)

外国人講師に完成したポスターを見せながら発表する本番を見据えたリハーサル。発表後、Q&Aの時間があり、外国人講師から発表について質問され、生徒は質問に答える。第2回ライティングワークショップの前に、「英語表現Ⅱ」の授業内で、発表の仕方や質疑応答について、生徒同士で確認し、学び合う時間がある。

### ②小石川フィロソフィーⅣ

#### ・4年生全員が英語のアブストラクトを作成

個人（または共同で）が研究した内容について、アブストラクトの下書き原稿を作成したら、外国人講師にアポイントをとり、英文の指導を受ける。英語の添削だけでなく、ディスカッションを通して、英語で小石川フィロソフィーでの研究内容を説明する力も身に付ける。完成した研究概要（Abstract）は図書館に展示し、在校生が閲覧できるようにする。

#### ・希望者を対象とした英語論文作成

個人（または共同で）が研究した内容について、希望する生徒は、外国人講師にアポイントをとり、論文のスタイルや表現について指導を受ける。

## (3) 成果と課題

英語をツールとして「使う」機会が生徒の学ぶ意欲を育てている。また協同学習を通して「学び方」を習得している生徒が多く、結果として、5年終了時には75%を超える生徒が英検2級以上を習得している。SSH部の教員やフィロソフィーⅣを担当している教員以外にも、英語科・情報科の教員、当該学年の担任とも連携することが求められるため、連絡系統の確立、指導法・情報の共有など、プロジェクトチームとして団結することが大切である。